

語り継ごう 疎開体験と平和への思い 『沖縄の心』を県内外に発信



乾杯のあいさつをする疎開者代表 金城隆さん
(西首寺会会長)



疎開者代表あいさつ 山裏会会長 町田妙子さん

去る十月十日、那覇市のロワ
ジュールホテルオキナワで「疎開
関係者交流事業」記念式典及
び交流会を行いました。県内疎
開児童のほか、宮崎県、熊本
県、大分県、台湾などから四
百三十二人の疎開関係者が出
席しました。
記念式典で稲嶺知事は、あ
らためて疎開受入先関係者へ、
当時の物心両面にわたるあたた
かいご支援に対するお礼を述べ



疎開受入者代表あいさつ 善行寺元住職 高橋芳英さん

ました。
また、疎開について学
習をした大里北小学校
及び南風原小学校の児
童代表により「平和への誓い」
が詠まれました。
交流会では、元児童疎開者
とお世話になった疎開先の方々
が久しぶりの再会を果たし、当
時に思いをはせ、お礼を述べる
のと同時に、未永い交流を誓い
合い、平和の尊さをかみしめま



した。
疎開船「対馬丸」や台湾か
らの引き揚げ船「栄丸」の遭難
で命がけの救助をしてくださっ
た奥田一雄さん（福岡県在）、
大島安徳さん（奄美大島在）、
張添茂さん（台湾在）も参加
し、救助された疎開者と感激の
対面をしました。
本事業は、戦後六〇年の節
目に『疎開』についてあらため
て取り上げ、疎開先関係者への
感謝、疎開中の戦没者への追悼
を行い、疎開体験の教訓を次の
世代へ伝えるとともに、世界の
恒久平和を希求する「沖縄の
心」を県内外に発信しました。
本県は、今後とも世界平和の
発信拠点として平和行政に取り
組んでいきます。

第6回特別企画展

沖縄戦と疎開 引き裂かれた戦時下の家族

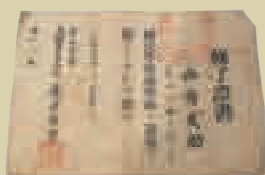
激しい戦火を避けるための疎開は、九州
地方の宮崎県、熊本県、大分県や台湾にま
で及びました。約八万人が疎開したといわ
れています。
本企画展では、疎開者の方々の協力によ
り収集した疎開先での写真や当時の持ち物
などを公開し、当時の状況を紹介します。
戦後六十年が経
ち戦争体験者は高
齢化していますが、
戦争の記憶を遠い過
去の出来事にしない
ためにも、本企画展
が平和の尊さを考え
るきっかけとなれば
と思います。



火鉢で暖をとる学童たち(宮里宏さん作)
数十年ぶりという氷点下の寒さに疎開者は震えました。

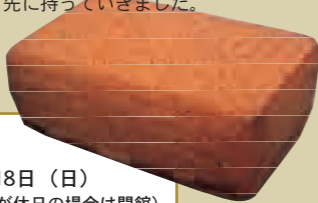


防空ずきん



疎開先の学校での修了証書

やなぎごおり
柳行李
衣服などをこの中に入れて疎開
先に持っていきました。



喜舎場国民学校の学童たち
熊本県山鹿町の温泉旅館に宿泊し、山鹿国民学校で学びました。

沖縄県平和祈念資料館

平成17年10月10日(月)から12月18日(日)
午前9時から午後5時まで(月曜休館・月曜が休日の場合は開館)
TEL: 098-997-3844

八重山平和資料館

平成18年1月17日(火)から2月26日(日)
午前9時から午後5時まで(月曜休館・月曜が休日の場合は開館)
TEL: 0980-88-6161



「ちゅらさん運動」で築く安全・安心な沖縄県



毎月3日は、「ちゅらさん運動の日」